

はじめに

本報告書は塩谷広域行政組合と宇都宮大学との「塩谷広域行政地域における循環型社会形成と市民参加のあり方に関する共同研究」の成果である。

この共同研究報告書は、2つの側面から検討している。第1は、ごみ（今回は主として産業廃棄物）の処理・再利用に関して、現在最先端地域といわれる2箇所の地区について選択し、宇都宮大学と塩谷広域行政組合との共同研究チームが北九州市のエコタウン（産業廃棄物の解体・再利用）、宇都宮大学単独チームで新潟県出雲崎町のエコパークいずもさきを調査した。また、本研究チームの中村が先進部分でもある沼津市、名古屋市のごみ処理方式と市民参加の在り方について調査を行った。北島は、市民参加について、最も進んでいると言われる北海道ニセコ町の市民参加方式について調査を行った。但し、この市民参加は、ごみ処理及びごみ管理ということではなく、まちづくりという側面での調査である。従って問題は、この方式がごみ問題にどのように関連させ得るかが今後の検討課題となる。

この「塩谷広域行政地域における循環型社会形成と市民参加のあり方に関する共同研究」の研究成果を踏まえて、平成16年度は、1市4町で5月から市民、行政、宇都宮大学との共同参画でごみ問題をめぐるシンポジウムを実施する予定でいる。循環型社会の形成に向けて市民一人一人がごみにどのように立ち向かうのかというごみ問題の理解とごみ問題解決のための市民参加の在り方がシンポジウムの重要な課題となる。

共同研究者

宇都宮大学副学長 北 島 滋

“ 農学部教授 酒 井 豊三郎

“ 工学部教授 今 泉 繁 良

“ 国際学部教授 中 村 祐 司

“ 教育学部助教授 陣 内 雄 次

塩谷広域行政組合事務局長 鈴 木 斌

“ 管理課長 黒 須 敏 文

“ 次期ごみ処理施設整備担当係長 鈴 木 幸 典

“ 次期ごみ処理施設整備担当主査 印 南 実